

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500133		
法人名	医療法人社団 住吉医院		
事業所名	グループホームちゅうりっぷ		
所在地	広島県呉市川尻町東3-8-5 (電話) 0823-70-5700		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500133-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500133-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成31年2月12日(火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

事業所理念である「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を念頭に置き安心して頂ける介護を目指しています。家庭的な雰囲気作りと、優しさ、思いやりの心を持ち、生活支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームちゅうりっぷは国道185号に面し、JR安芸川尻駅より東へ徒歩10分、呉市営バスバス停清水町前で下車と交通の便はとても良い所に位置している。法人母体の病院も近く、家族、利用者、職員は安心して利用されている。事業所のモットーは、利用される皆さんに“明るく”“自由に”“楽しく”“尊厳をもって”過ごしてもらえるように援助するを掲げ、職員は、利用者お一人おひとりに応じた話し方や声のトーンに留意されて、穏やかな雰囲気ですべて接するように心がけている。管理者・職員は、利用者に合わせてゆっくりと、共に一日を過ごし、身体が不自由になっても気持ちは明るく持てるように、利用者の一日一日を大切に支援を心掛けている。職員は常に見守りながら利用者の出来る事を見つけ出し「自分でやれる喜び」を得て生き甲斐を見いだす支援に努めている。利用者は自分のペースでゆっくりゆったりと過ごし、職員は一日一回は必ず一人ひとりの笑顔が見られるケアに一丸となって取り組んでいる。

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」という理念を掲示し、毎朝唱和し実行し、共有に努めています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を事業所内に掲示し、理念を毎朝唱和し、常に意識、確認している。管理者と職員は、理念にある個人の尊厳や自己決定について、朝夕の申し送り時や会議、カンファレンス時に職員間で話し合い、日々のケアを振り返り、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	夏祭り等の季節行事や年2回の町内清掃等地域と交流できるように努めている。	地域の中でその人らしく暮らしてもらう為に、地域との関わりを大切にしている。法人主催の夏祭りを例年実施して多くの方が参加されますが、今年度は災害の為中止にしている。災害時に断水になり、地域の方の井戸水を頂いたり、飲料水の提供を受けたり、地域との絆が出来ている。清掃活動等、地域の行事に参加して交流を図っている。	今年度は、大きな災害があり、法人主体の夏祭りも開催できず、地域の方とのふれあいの場を設ける事が出来ていません。しかしながら、災害時には、地域の方の井戸水をトイレ等に提供下さったり、飲料水を持ち込んで頂いたりと絆をより一層感じておられ、今後も更に、地域との交流を深められる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や見学等の希望があれば受け入れ、理解をして頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、近況報告や行事の報告、意見交換を行い、アドバイスを受け入れている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・民生委員・管理者・計画作成担当者・利用者代表・小規模多機能事業所管理者・職員が参加し、利用者の状況や活動報告、研修報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価への取組み状況等を説明した後、意見交換し、検討してサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護保険課と不明な点があれば電話、訪問で相談している。	市担当者は、運営推進会議に出席していて情報交換している。電話や集団指導時の他、直接出向いて、申請内容、手続き、運営上の疑義、市のサービスについて相談し助言を得ている等、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロを目指す」マニュアルを通じて全職員が理解している。	「身体拘束ゼロ委員会」を3ヶ月毎に開催して話し合い、適切なケアが出来ているかを見直し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックや不適切なケアに気付いた時には、管理者が指導すると共に職員間でもお互いに注意し合っている。	
7		高齢者魚躯体 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法(高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する法律)の意義に対する理解を深め、その定義、責務についての勉強会をしている。		

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についてはパンフレット等で制度についての理解をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に必要な時間を掛け、十分に説明を行い、本人の思い、家族の希望を聞き、文章により同意と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に対し意見箱を設け、要望に応えられるよう努めている。	家族からは、面会時や運営推進会議参加時、行事(誕生会、敬老会、クリスマス)参加時、電話等で意見や要望を聞いている。家族の面会時には、管理者や利用者を担当している職員は必ず時間をとって、利用者の日々の状態について話し、家族の悩みや心配事に応えるようにして、家族が気軽に話せるよう雰囲気作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を開催している。職員の意見や要望、提案を取り入れるようにしている。	朝夕の申し送り時や定期の全体会議で職員の意見や提案を聞き、サービスに活かす事で職員意識の向上や働き甲斐に繋げている。それに対して検討し、運営者・管理者との話し合いをし、可能な限り反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度を導入し、個々のレベルにあった給料水準を決定する仕組みとなるよう努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内を回覧し、呼びかけている。法人内でも研修計画を作成し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交流したいとは考えているが中々機会が作れていない。		

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、利用者様に不安な事、困っている事をよく聞くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に不安な事、要望を聞き、安心して利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い、必要に応じて問題点がある場合には適切なサービスが行えるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器洗いや洗濯物を一緒にたたむ等、日々の生活を通じて時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様のみではなく、ご家族の生活に対しても総合的な支援となるよう心掛けている。特に離れて暮らしているご家族に対しての心情の共感をもとにケアが行えるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、友人、知人が訪問して頂いた時に、気軽に再来して頂けるような配慮を行っている。	親戚・友人・知人が来訪し居室で会話を楽しみ、家族と外出して食事を楽しんでいる利用者もいる。馴染みの美容院に出掛ける利用者もいる。例年は法人主催の夏祭りを実施して、地域の方に参加して頂き、関係が途切れないように支援しているのですが、災害の為中止になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共に過ごせるフロア内での席の位置を考え一人一人が孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても困った事があればいつでも気軽に相談して下さいと伝えている。		

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いや暮らし方の希望を喜怒哀楽表現や本人の言葉、家族からの声等を通じて情報を得ている。	入所前の生活習慣、生活履歴や日々の介護の中から、利用者の発した言葉や表情の違い等、気づきを業務日誌に記録し共有し、希望や意向を把握している。本人の希望、意向に出来るだけ添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やこれまで利用してきたサービス機関からの情報提供依頼を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりその日の心身状態の経過記録を残し職員全体で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様の思い、家族の要望を伺い、カンファレンスにて検討し、介護計画を作成している。	介護支援専門員兼管理者が職員と情報交換を行い、家族・利用者、必要時は医師の意見を取り入れ介護計画書に反映させている。利用者の日々の変化は職員が見逃す事なく個人ファイルに迅速に記載している。介護計画書と共にフロアの事務室に置かれており、職員が日常的に確認出来るようになっている。モニタリングを3ヶ月に1回実施し、介護計画書は6ヶ月に1回見直しをしている。状態の変化や急変時にはその都度カンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を作成し、情報共有に努め、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者本位の生活、ご家族の状況に合わせ、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域生活の継続性という視点から、緊急時の連絡体制等を補う事を目的とし、近隣住民や民生委員、地域包括支援センター等に必要な相談、連絡を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様、ご家族様の希望や経緯を最優先とし、これまで受診されてきたかかりつけ医が継続受診出来るように支援を行っている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を優先していますが、基本的には事業所の法人病院をかかりつけ医としている。皮膚科・眼科等他科受診は職員が支援している。法人病院は24時間対応で、緊急時には主治医・看護師と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェックをもとに体調変化がある場合、速やかに連携医療機関に相談、連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院の地域連携室を通して入退院時に係る相談、手続き、必要な情報等の交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	担当者会議及びその他の相談をもとに、利用者様、ご家族の意見が最大限尊重されるように努めている。	これまでに看取りの経験がある。入所時「重度化した場合に於ける看取り指針」について、ホームの方針と対応出来る事を説明している。又、看取りを希望する場合は、本人、主治医、家族、看護師、職員と話し合いの場を持ち、意向の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ヒヤリハット、アクシデント報告書を通し緊急時及び事故発生時の対応及び連絡経緯の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている。	消防署の協力指導により、避難訓練を行っている。	消防署立会いの下、年2回避難訓練が行われている。内1回は自主的に1階の小規模多機能施設と日中や夜間を想定して火事発生時の対応をスタッフ、入居者と共に行っている。避難時の誘導方法をその都度確認合っている。機器の使用方法や水消火器で取り扱い方を実施し、確認している。民生委員も参加している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人理念を唱和する事により職員一人一人が常に心がけるように努めている。	職員は利用者の中から顔を見て目線を合わせて話し、表情を見て気持ちの理解に努めている。職員は感情を顔に出さないように心がけ、管理者は気になる事はその場で注意している。声掛けの仕方では丁寧に問いかけて気持ちに配慮し、不穏時には時間を置き、気分を変える支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を表わしやすい環境作りに努め自己決定出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の希望にそって安心して暮らせるように支援している。		

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみに気を付けて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き、お盆拭き、食器洗い等の洗い物を一緒に行うよう支援している。	3食とも外注業者に依頼して食材を温めて提供している。利用者は、下膳の手伝いや、食器洗い、テーブル拭き、お盆拭き等出来る事を職員と一緒にやっている。かつば寿司に食事会に出かけたり、行事食を楽しまれたり、おやつ作りでさつま芋の団子を作ったり、誕生日のケーキ作りをして楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量や水分等を記録し習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体状況に合わせトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを確認して、定時に仕草や表情を見て声かけをして、出来る限りトイレ誘導し自立排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分をしっかりと摂って頂く。体操、レクリエーション等で運動を取り入れ便秘予防を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングに合わせて声掛けを行いゆっくり入浴して頂いている。	利用者の体調や希望により週2~3回入浴が行われている。入浴剤を入れて、気分をリラックスする等工夫している。体調が悪く入浴できない場合は清拭・シャワー浴・足浴等に対応している。入浴を嫌がる人には「タイミングを見て人を替え・日を変えて」個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や生活リズムに合わせて、休息をして頂き安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療スタッフ及び薬局と連携のもと、薬剤情報を確認し服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		

グループホームちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの力を活かし役割をして頂き一緒に歌を歌ったり等で気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	桜や紅葉等、季節を感じられるよう外出の機会を企画している。	基本的には、本人の希望があれば天気と体調を見ながら近所の散歩に出かけている。ドライブで蒲刈に鯉のぼりを見に出かけている。今年度は災害があり、道路の寸断や断水・停電等あり遠方の外出の機会が少なくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望により近所の商店に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時希望に応じて、電話等の方法でご家族とのやり取りが出来る体制をとっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	移動動線上の安全確保の為廊下に物を置かないようにしている。季節を感じられる作品等の掲示を行っている。室温はいつも気を付けている。	リビングの壁には、スタッフと利用者共同で作成された季節感がある作品や行事の写真が掲示されている。室温・湿度を頻繁にチェックされ、温度差・乾燥の防止に努めている。共用空間は職員が毎日清掃し、テーブルやソファの配置を工夫し、安全ですっきりとした共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由な形で利用出来る量の間(スペース)を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた物等を使用してもらい、居室内の配慮はご本人や家族の希望に応じて行っている。	居室には、入居前から利用されていた使い慣れた家財道具や家族の写真・テレビ・人形・色紙・ラジオ・カレンダー等が飾られ、本人が過ごしやすい環境が整えられるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体状況にあわせ、利用する部屋の配置を行い、無理のない生活上の移動が行えるようにし、危険リスクを軽減する事に努めている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームちゅうりっぷ

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームちゅうりっぷ

作成日 平成 31 年 2 月 13 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の付き合いが十分ではない	近所、地域の方にグループホームを理解して頂く。	利用者様が地域から孤立しないように、出会った人には挨拶をする	1年
2	14	同業者との交流ができていない	交流の機会を持ち、サービスの質を上げる	外部の研修に参加したり、情報交換の機会を持つようにする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。